

連日の雨模様ですが、雨の日は駅から学校までの道が、傘の花ひらいたように見ていて楽しいです。梅雨が明ければ夏。図書室でも夏休み貸出がはじまりました！



1. 2018 年度 + 2019 年度 4～6 月の貸出数

*2018 年度貸出数（学年は昨年度のもの）

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
昨年度累計	1241	831	882	983	256	559	4752

*2019 年度 4～6 月貸出数（学年は今年度のもの）

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
4月	178	119	74	63	77	39	550
5月	161	72	73	26	45	8	385
6月	130	132	62	87	75	46	532
今年度累計	469	323	209	176	197	93	1467

4～6月の個人貸出数ランキングは、1位 46冊（中1-4）、2位 44冊（中3-2）、3位 32冊（中3-4）、4位 29冊（中2-4）、5位 25冊（中1-1、中2-4）でした。個人情報観点から名前は載せていません。

2. 恒例の福袋がはじまりました！

今年も夏の福袋を用意しました。一つの福袋には本が2冊入っています。



今回も素敵な
おまけつき！



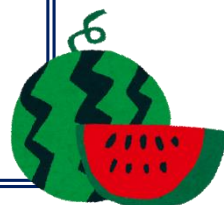
普段は書棚から本を手にとって、読んでみたいと思えば借りていると思いますが、これは何の本が入っているかは“お楽しみ（サプライズ）”というわけです！福袋には、今まで自分が選んだことのない本が入っているかもしれません。それもまた新鮮で発見です！

夏休みには、ぜひじっくりといろいろな本に出会ってくださいね。図書室でお待ちしています！

3. 夏休み貸出がはじまりました

夏休みは普段よりも貸出期間が長く、借りられる本の冊数も多くなります。比較的余裕のある夏休み、涼しい部屋で本を読むのはいかがでしょうか？ 期限までに読み終わったら、別の本を借り直すこともできます。

貸出開始 7月8日(月)
返却期限 9月2日(月)
貸出冊数 合計5冊まで ※DVDは1人1本まで



4. 夏休みの開室日

冷房が効いているとはいえ油断せず、水分補給をしっかりとしてください。

◎開室日

《10:30~17:30》 ※3階自習室は、終日開放。

前半 7/22(月)~8/5(月)

後半 8/17(土)~8/24(土)

※日曜日・祝日は除く



5. 夏休みにおすすめの本

比較的最近入った本の中から、おすすめの本を紹介します。夏休みに何を読もうか迷ったときの参考にしてください。

『図解！！生き残るためのやりかた大百科』 Joseph Pred 著
パイインターナショナル (369.3/P91)

緊急事態に備えるために、どのようなことが必要になってくるでしょうか？ 防災・救急セットの準備、泥棒から家を守る方法、個人情報を守る方法、インフルエンザの防ぎ方、心肺蘇生法、蜂に刺された時の手当て、溺れた人の助け方、鹿肉ジャーキーの作り方、ジャングルで寝泊まりする方法、木から降りられなくなった猫を救う方法、おいしいへビ肉の下ごしらえ、サメの攻撃のかわし方、隠し部屋の作り方、ピューマの追い払い方など、役立つ……かもしれない、ちょっと面白い(?)、生き抜くための豆知識が紹介されています。



『徳川おてんば姫』井手久美子 著 東京キララ社 (289/I19)

最後の将軍、徳川慶喜の孫（末っ子）の手記です。嫁ぎ先で肩身の狭い思いをしたり、最初の夫が戦死したり（その後、軍医と再婚）と、波乱万丈な人生。それでも、徳川家のおひいさま！ お屋敷での様子や学校生活など、庶民とはかけ離れているところも、本書で楽しめます。語りかけるような文章は、とても上品で、おてんばだったといえども、お姫様だということをうかがわせます。そういった中で、玉音放送を聞いたときの感想が、普通の女性だな、という感じがしました。



『3時間半で国際的常識人になれる速修戦後史 欧米編』ゆげ塾 ディスカヴァー・トゥエンティワン (209.75/Y96)



第二次世界大戦後の、アメリカとロシアの冷戦の過程を中心に、世界史をみていっています。年代順に起きたことを述べた後、アメリカ大統領別の実績や、イギリス・フランス・イタリアなどの国別にみており、整理して世界史が学べます。受験対策とまではいかないですが、補完するには十分な内容なので、戦後の欧米史に興味がある方は、ぜひ読んでください。

『誰も知らない死刑の舞台裏』近藤昭二 著 二見書房 (326.41/Ko73)

昨年、松本智津夫の死刑が執行されたことで、死刑が注目されています。この本では、秘密にされてきた死刑の裏側を知ることができます。例えば、「皮剥ぎの刑」、「生き埋めの刑」などの日本や世界で行われてきた残酷刑の歴史、死刑廃止国、日本の死刑の変貌、最後の日を迎えるまでの死刑囚の獄中生活・心の内側などです。死刑制度の問題を知り、「死刑」について改めて考えさせられる一冊です。



『リストラ日和』汐見薫 著 角川春樹事務所 (913.6/Sh74)

銀行員の森山二郎は、仕事にも家族にも恵まれ、幸せに暮らしていた。けれどもある日突然、上司からリストラを言い渡され、二十九年間にわたる銀行員生活に終止符を打つことになる。転職するも日々慣れないことばかりが続き、次第に家族との関係もぎくしゃくしていく。さらには銀行員時代に扱った案件によって訴えられて……。働くということの意味を問いかける作品です。

『香道を楽しむための組香入門』谷川ちぐさ 著 淡交社 (792/Ta87)

お香は「嗅ぐ」ではなく「聞く」と言います（聞香（もんこう）という言葉があります）。香りに関する文化は世界中にありますが、日本には6世紀には香木が伝来していたといい、「香道」という独自の芸道を発展させました。「香道」には古典の知識が不可欠で、この本にも、優雅な和歌や植物の名がたくさん出てきます。日本文化に興味のある方はぜひ。



『テラー伊三郎』 川瀬七緒 著 角川書店 (913.6/Ka997)

津田海^{アクアマリン}色は男子高校生。地方の小さい町で、退屈な日々をやり過ごしている。ある日、さびれた紳士服屋に飾られていた美しいコルセット（18世紀ヨーロッパ上流階級の女性が着用していた装飾的な下着）と出会ったことで、彼の世界は変わり始める。「スチームパンク」というSFのジャンルをご存知ですか？真鍮のごつい腕時計や、ワークブーツ、ゴーグルを装着したキャラクターが活躍する、蒸気機関を動力とするパラレルワールド……そんな分野があることを、私はこの小説で知りました。80歳の伊三郎と17歳の海^{アクアマリン}色がチームとなり、知識と技能と人脈を持ち寄って創り上げる「スチームパンク」の力で、さびれた田舎町が息を吹き返します。



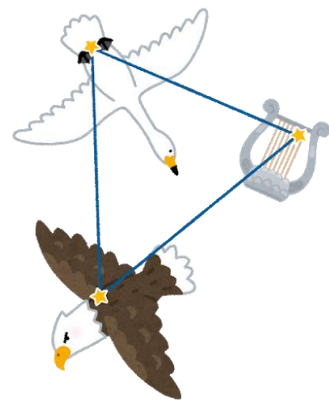
『風と行く者 - 守り人外伝 - 』上橋菜穂子 著偕成社 (913.6/U36)



女用心棒のバルサは、訪れた市場で旅芸人の一座と出会う。彼らは戦のあった土地を巡り、音楽で死者の魂を鎮める旅をする〈風の楽人〉で、バルサは昔、養父ジグロと共に護衛をしたことがあった。二つの氏族の争いに巻き込まれ、命を狙われる一座。再びその用心棒となったバルサの旅を、過去と現在から描く。外伝を含み、全12巻のシリーズ最新刊です。バルサたちとまた会うことができました。全巻所蔵していますので、未読の方はこの機会にぜひどうぞ。

『宮澤賢治 愛のうた』澤口たまみ 著 夕書房 (910.268/Sa93)

生涯独身だった宮澤賢治。しかし彼には一人だけ、愛した女性がいました。晩年の賢治が病床で書いた150篇もの詩の中には、恋人の存在を直接的に描いた作品が多くあり、著者はそれを「自分の恋を知ってほしい」という賢治からのメッセージではないかと考えます。身近な人々の証言から浮かび上がってくる、1人の若者としての彼の姿と、作品にひっそり埋め込まれているキーワードをもとに読み解かれていく、宮澤賢治のラブストーリー。最後の一頁まで、どうぞ読んでみてください。『銀河鉄道の夜』『春と修羅』『シグナルとシグナレス』などよく知られた作品の印象が変わるかもしれません。



『イチからつくるチョコレート』NPO法人APLA ほか 編 農文協 (588.34/A59)

チョコレートの原材料がカカオだということは周知のとおりですが、チョコレートを作るのに使うのは、実はカカオの種のみ。種を発酵させたり天日干ししたりするうちに、あのような味と香りが出てくるのです。非常に手間のかかるチョコレート作り、児童労働が世界的にも問題にもなっています。本の中には、チョコレートの手作りキットも紹介されています。この夏試してみるのもいいかもしれません。

